

# 「1 学校で 大地震が起こったら」

- 学習のねらい： 1. 自分が通っている学校での起こりうる危険や適切な危険回避の方法を理解する。  
2. 避難時に注意すべきことを知る。  
3. 防災資機材を活用した簡単な防災活動ができる。

(指導上のポイント)

◆生徒が危険と考えた理由についても発表させる。

◆休み時間等のさまざまな時間帯を想定した危険回避行動についても考えさせる。

◆学校で身を守る方法について考えさせる。

例) 教室では机の下に隠れる。

図書室では本棚から離れる。

◆津波による被害が予想される学校や第1次避難場所が危険な場合は、第2次避難場所への避難が必要になることを指導する。

## 《参考》

○学校で考えられる危険

【教室】時計・放送機器の落下、本棚・ロッカーの転倒、照明器具・天井部材の落下、窓ガラスの飛散

【廊下】掲示板の落下、防火扉の破損

【階段】階段からの転落、壁の剥落

【昇降口】下駄箱の転倒

【図書室】本棚の上段にある図書等の落下、本棚の転倒

【理科室】薬品棚の転倒、実験中の器具の破損・薬品の飛散・引火

【音楽室】ピアノの横滑り、楽器の転倒

【家庭科室】食器棚の転倒、包丁・食器などの落下と破損、ガス漏れ

【体育館】体育器具の落下・転倒

【校庭】窓ガラスの破損と破片の落下、外壁材の剥落、運動用具・遊具の損壊、銅像の倒壊

## 1 学校で 大地震が起こったら

### (1) 学校の中で危険なこと

これまでに起こった地震で、学校では下の写真のような被害がありました。あなたの学校では、どのような危険があるか考えてみましょう。



ピアノの横滑り、薬品棚の転倒、サッカーゴールの転倒、食器棚の転倒 など

3

(次年度以降の展開例)

- ・ 抜き打ちの避難訓練を行い、自分の行動を振り返らせる。
- ・ 避難訓練と組み合わせ、危険回避から避難までの流れを説明させる。などが考えられる。

## (2) 学校での危険からの身の守り方

あなたが学校で休み時間によくいる場所について、考えられる危険、身の守り方を書きましょう。

場所	考えられる危険	身の守り方
例) 教室	照明器具の落下	机の下に隠れる。
図書室	本棚の転倒	本棚から離れ、机の下に隠れる。
校舎	窓ガラス破片の落下	校舎から離れる。
体育館	照明器具の落下	中央に集まり、身を守る。

## (3) 避難するときに気をつけること

①あなたの学校では、どのような経路で、どこへ避難することになっていますか。

例) 東階段を下り、昇降口から運動場へ避難する。

②避難する経路には、どのような危険があると考えられますか。また、どんなことに気をつけたいですか。

- ・廊下の窓ガラスの破損に気をつける。
- ・階段で混雑して、将棋倒しにならないようにする「お・は・し・も」を守る。

●避難場所まで何分かかりますか。( 5 分)

※津波が来る恐れのある場合、まず揺れから身を守り、その後、すぐ高いところへ避難するという、二段構えの対応をしましょう。

もしも誰かが突然に倒れたら…

### 心肺蘇生法

呼吸が止まり、心臓も動いていないとみられる人に対して、胸骨圧迫を行う初期の救命方法です。二次災害を防ぐために周囲の安全を確認してから実施します。

最初に相手の肩をたたきながら、耳元で「大丈夫ですか」と呼びかけます。意識の有無を確認したうえで始めます。

### AED

心室細動(心臓の筋肉が不規則にブルブルと震え、全身に血液を送り出すポンプの役割を果たせない状態)に陥る症状を起こした人に取り付け、電気ショックを与えて心臓の動きを取り戻すための救命機器です。

最初に体が濡れていれば拭き取る。手触はAEDの音声ガイドランスに従えばよいので、落ち着いて行う。AEDの設置場所はどこですか。

例) 玄関

## 《参考》

○場所ごとの危険回避方法

【教室】机の下に隠れて、両手で机の脚をしっかりと持つ。

【廊下】頭をカバンや本、手で守る。照明器具、窓ガラス、ドアからなるべく離れる。

【階段】手すりにつかまり、揺れがおさまったら安全を確認しながら降りる。

【昇降口】下駄箱から離れる。あわてて外に出ない。

【図書室】本棚から離れ、テーブルの下にもぐる。テーブルまでたどり着けない場合は、持っている本・雑誌などで頭を守る。

【理科室】薬品棚から離れる。

【音楽室】ピアノ、楽器棚などから離れる。

【家庭科室】包丁や皿などが落ちてくることを考え、頭を守る。

【体育館】中央に集まり、身を守る。

【校庭】サッカーゴールなどの体育器具や校舎から遠ざかり、中央に集まる。

(指導上のポイント)

◆地震発生時の初期対応として「落ちてこない・倒れてこない・移動してこない」場所をすばやく見つけ出して身を寄せ、自分で自分の命を守ることを指導する。

(指導上のポイント)

◆地震はいつ、どこで起きるか分からないので、自分たちの教室以外のさまざまな場所での避難ルートについても考えさせる。

◆「お・は・し・も」を指導する。  
・**お**さない、**は**しらない、**し**ゃべらない、**も**どらない

◆「はしらない」は、廊下、階段でのけがを防ぐためのものであり(校舎内)、外へ避難したら走る場合もある。

◆「津波が来そうなら、急いで高い場所へ避難する」とあるが、各市町に津波からの避難先を確認するなど、地域の実態に合わせて指導する。

◆津波が来る恐れがある学校では、どの程度時間の余裕があるかを確認する。

◆良い天候や昼間の時間だけでなく、例えば雨の日や夜間に避難する場合はどうすればいいかを考えさせる。

(指導上のポイント)

◆呼吸や心臓が止まった人でも命を救えること、それには応急手当が重要な意味をもつことを指導する。

◆周囲の大人に知らせたり、119番通報したり、AEDのある場所を知っておくことで大切な人の命を救えることを指導する。

(確認) 危険の種類や適切な回避行動、避難にあたっての留意点などを理解できたか。